

日本アルコール・アディクション医学会

柳田知司賞 選出規定

日本アルコール・アディクション医学会は、柳田知司賞は、年齢 50 歳以下（前年 12 月末時）で、ニコチン、アルコールおよび薬物依存、行動嗜癖関連研究の発展に大きく貢献した会員 1 名に柳田知司賞を授与する。

1. 応募

柳田知司賞の受賞候補者は、本会評議員 1 名の推薦を受け、申請書類（様式 1：研究業績とアディクション領域の貢献度を記載）を 2018 年 7 月 6 日（金：必着）までに日本アルコール・アディクション医学会柳田知司賞選考委員会宛てに提出する。尚、本賞を受賞された者は再度応募する事は出来ない。

2. 表彰

柳田知司賞は賞状および副賞とし、年会の際に理事長より表彰する。受賞者は年会において受賞講演を行う。

3. 選考

- 1) 柳田知司賞の選考は、柳田知司賞選考委員会にて行う。
- 2) 選考対象者と同一の講座（大学以外の機関はこれに準ずる部局）に所属する選考委員および選考対象者の推薦者は、その年度の選考には加わらないものとする。
- 3) 適任者がいない場合は選出しないことがある。
- 4) 選考委員会は受賞者を決定し、委員長は該当者なしの場合を含めて理事長に報告する。委員長は年会の際に開催される理事会に選考経緯および結果を、また評議員会に選考結果を報告する。

付 則

- 1) 本規定を変更する場合には、理事会の承認を得なければならない。

以上

日本アルコール・アディクション医学会 柳田知司賞

日本アルコール・アディクション医学会理事長 殿

下記の研究業績をもって、日本アルコール・アディクション医学会柳田知司賞に推薦致します

1. 受賞候補者

氏 名:

生年月日:(西暦) 年 月 日 生(前年12月31日現在 歳)

所属機関および職名:

学会入会年月日:(西暦) 年 月 日(会員歴 年)

連絡先

住所

電話番号

Fax 番号:

E-mail:

略歴

2. 研究業績

発表年	<p style="text-align: center;">発 表 論 文 名 ・ 著 書 名 等</p> <p>以下の記載例にしたがって、原著論文、総説、著書(単行本)、学会発表の順に記載してください。原著論文では査読の有無と、主要論文三編を提示してください。 (以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略(省略する場合、その員数と、掲載されている順番を○番目と記入)しても可。)</p>
	<p>以下は記載例です</p>
2016	<p>原著論文</p> <p>Saito T, Higuchi S, Yanagita T et al: The reinforcing efficacy of psychostimulants in rhesus monkeys: the role of pharmacokinetics and pharmacodynamics. J Neurosci 46: 155-162, 2016. (査読 有)</p>
2016	<p>藤宮龍也, 斎藤利和, 柳田知司ほか. SIAM 現象へのアルコール代謝関連酵素の関与の検討. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 20: 189-196, 2016 (査読 有)</p>
2017	<p>総 説</p> <p>Takei Y, Yanagita T: Pathogenesis of alcoholic liver disease. JAMA 17: 54-71, 2017</p>
2016	<p>斎藤利和, 藤宮龍也, 柳田知司ほか: SIAM 現象へのアルコール代謝関連酵素の関与の検討. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 20: 189-196, 2016</p>
2010	<p>著書 (単行本)</p> <p>Ikeda K: The pharmacology of classical hallucinogens and related designer drugs. In Ries RK, Miller SC, Saitz R (Eds): Principles of Addiction Medicine, Fourth Edition, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, pp215-230, 2010</p>
2018	<p>岡村智教: 高齢者脂質異常症診療ガイドライン 2017. 斎藤利和, 柳田知司編: 衛生学・公衆衛生学, 中山書店, 東京, pp235-256, 2018</p>
2014	<p>学会発表</p> <p>Miyata H: Structure of craving in nicotine addiction. Symposium (Clue to the Next Decade of Nicotine Dependence Research). 16rd International Society of Addiction Medicine Annual Meeting, Yokohama (Japan), 2014, 10, 4.</p>
2017	<p>近藤あゆみ, 嶋根卓也, 松本俊彦ほか: 多様化が進む依存症回復支援施設の現状と課題 薬物依存症回復支援施設の DARC と刑務所・保護観察所との連携. 第 52 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会, 横浜, 2017,9,8.</p>

--	--

3. アクション領域への貢献度

推薦理由(業績の背景、今後の展望を含めて):

推薦評議員

年 月 日

所属

ご氏名

印